



## 第32回年次研究講演会 論文募集および講演会参加申込みのご案内

主催：特定非営利活動法人日本オゾン協会

日本オゾン協会年次研究講演会は平成3年（1991年）に第1回を開催して以来2022年度で31回を数え、2023年度は6月22、23日に東京都立大学南大沢キャンパス（東京都八王子市）で下記のとおり開催する予定です。

オゾン利用技術は、安全・安心で快適な生活環境などで利用されるものとして、おいしい水道水づくりや、再利用や環境保全の観点から下処理にも利用されると同時に、プールや水族館、農業や食品分野、工場生産工程、医療、半導体などのハイテクに至るまで幅広く利用されています。オゾンの発生、利用、処理等に関しては様々な分野で調査・研究及び実用化され稼働しています。特に浄水場や下水処理場でのオゾン利用はオゾン発生機容量のトップを占め、納入されてからの運転管理も重要になっております。これらに関する情報交換及び討論の場として、本協会として例年年次研究講演会を開催しております。

発表は**研究論文**のみならず、**速報情報、実験成果や運転管理および実例紹介**も受け付けます。また、発表者は**会員、非会員**を問いません。ふるって発表、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

本協会は特許庁より特許法第30条第1項（実用新案法第11条第1項において準用する場合を含む）の規定に基づく**学術団体**に指定されております。

本案内は論文募集と年次講演会申込みのご連絡をするものです。論文に応募される方は、年次講演会・意見交換会への参加申込みも同時におこなっていただければ幸いです。論文に応募されない方も、年次研究講演会・意見交換会への参加申込みができます。プログラムは4月頃に別途公表致します。

**年次研究講演会・意見交換会への参加申込につきましては、専用ウェブサイトよりお願いいたします。専用ウェブサイト→<https://va.apollon.nta.co.jp/32ozone-jp/>**

**開催当日の参加登録は出来ません。必ず上記サイトから参加申込をお済ませの上、ご来場ください。**

### 記

開催日 2023年6月22日（木）、23日（金）

会場 東京都立大学 南大沢キャンパス 講堂「小ホール」  
（〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1）

募集論文 論文 要旨集：A4×最大4枚 発表時間：最大15分間  
ポスター発表 要旨集：A4×1枚 発表時間：最大5分間

発表申込期限 2023年2月24日（金）

論文提出期限 2023年4月25日（火）

講演会参加申込期限 2023年6月8日（木）

### 参加費

#### 年次研究講演会参加費

参加費払込期限	会員（IOA会員含む）及び 公共機関・教育機関	非会員	学生 (要学生証 <sup>※</sup> -添付)
2023年5月16日（火）まで	17,000円	21,000円	2,000円
2023年5月17日（水）以降	19,000円	24,000円	3,000円

別途：意見交換会参加費用 6,000円/1名

（意見交換会は新型コロナウイルス感染状況によっては中止となる可能性があります）

取消料 2023年5月31日（水）までの参加取消50%

## 申込方法

論文発表申込書に必要事項をご記入のうえ、電子メールまたは FAX にてお申込みください。当協会ホームページ (<http://www.j-ozone.org/>) からでも、論文発表申込書（電子データ）をダウンロードできますので、電子メールで送付いただけたら幸いです。

## 交通案内

- 京王相模原線「南大沢」駅改札から徒歩約5分
- ※改札を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。
- 詳しくは [https://www.tmu.ac.jp/campus\\_guide/access.html#](https://www.tmu.ac.jp/campus_guide/access.html#)



## 問い合わせ先

特定非営利活動法人 日本オゾン協会 事務局（担当：田村、西島）  
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 10-10 日本橋インテリジェントフラッツ 301  
TEL : 03(6661)1622、FAX : 03(6661)1623  
e-mail [joa@j-ozone.org](mailto:joa@j-ozone.org)  
URL <http://www.j-ozone.org/>

## ■研究・講演の分野

- |            |           |                        |             |
|------------|-----------|------------------------|-------------|
| A. 発生・発生装置 | B. 計測技術   | C. 吸収・反応器              | D. 反応機構     |
| E. 反応生成物   | F. 促進酸化法  | G. 浄水処理                | H. 工業用水処理   |
| I. 下水処理    | J. し尿処理   | K. 産業廃水処理              | L. 汚泥処理（改質） |
| M. 排オゾン処理  | N. 空気浄化   | O. 消毒・殺菌               | P. 脱臭       |
| Q. 食品      | R. 医療への応用 | S. 製造プロセス工程（紙パルプ・半導体等） |             |
| T. 水族館／養殖  | U. プール・スパ | V. 金属腐食・酸化             | W. 貯蔵・保存    |
| X. 事例紹介    | Y. その他    |                        |             |

## ■キーワード例（以下に該当するキーワードがない場合は追加いただいて結構です）

### A. 対象分野（大分類）

1湖沼水, 2河川水, 3地下水, 4海水, 5飲用水, 6用水, 7工業廃水, 8し尿処理水, 9下水処理水, 10生物処理水, 11嫌気処理水, 12モデル水, 13その他, 14大気, 15排ガス, 16モデル排ガス, 17排オゾン, 18汚泥, 19廃棄物, 20食品, 21農林, 22水産, 23合成, 24加工, 25殺菌, 26漂白, 27劣化, 28腐食, 29不活化, 30反応, 31精製, 32治療, 33衛生, 34地球環境, 35装置開発, 36生成効率, 37測定法, 38装置設計

### B. 対象分野（小分類）

1浄化处理, 2再利用, 3プール, 4浴場, 5冷却水, 6純水, 7水族館, 8養魚, 9植物栽培, 10空気浄化, 11大気浄化, 12排ガス浄化, 13食品保存, 14食品消毒, 15材料消毒, 16パルプ, 17化成品, 18材料

### C. 対象物

1人, 2動物, 3魚介類, 4原生動物, 5植物, 6藻類, 7微生物, 8有機物, 9無機物, 10有害物, 11変異原物質, 12遺伝毒性, 13内分泌攪乱化学物質, 14農薬, 15難分解物, 16生体物質, 17腐食成分, 18異臭味物, 19臭気物, 20色, 21染色, 22界面活性剤, 23モデル物質, 24塩素化合物, 25窒素化合物, 26窒素酸化物, 27リン, 28金属イオン, 29ハロゲンイオン, 30付着物, 31懸濁物, 32BOD, 33COD, 34TOC, 35TOD, 36ゴム, 37材料, 38半導体, 39パルプ, 40石油

### D. 技術内容

1単独, 2併用, 3オゾン分解, 4酸化処理, 5生物処理, 6促進酸化処理, 7濾過, 8生物濾過, 9活性炭, 10生物活性炭, 11凝集, 12吸着, 13膜, 14浮上, 15沈殿, 16ストリッピング, 17塩素, 18クロロミン, 19二酸化塩素, 20 $\text{KMnO}_4$ , 21過酸化水素, 22他酸化剤, 23pH, 24温度, 25濃度, 26時間, 27紫外線, 28放射線, 29電子線, 30電磁波, 31超音波, 32添加物, 33触媒, 34電解, 35かくはん, 36生成物, 37分析, 38腐食, 39酸化, 40機構, 41反応速度, 42物質移動, 43反応器, 44生分解性向上, 45実験室規模, 46パイロット, 47実装置, 48管理, 49制御, 50設計, 51法規, 52規格, 53技術評価, 54経済評価, 55比較評価, 56展望, 57アセスメント, 58数学モデル, 59シミュレーション